令和６年度　日置市立日吉学園

立志　友愛　克己　やさしく　かしこく　たくましく

令和６年度８月号

せっぺ　翔べ

日吉学園ＨＰ　★新日吉学園ブログ

持続可能な平和な社会の実現のために

日吉学園 校長 松尾　明

８月 11 日の夜，第 33 回オリンピック競技会パリ大会の閉会式が行われました。計 19 日間の日程で行われた大会では，難民選手団を含めた 200 以上もの国や地域から，約１万５千人の選手が参加しました。

オリンピックは「平和の祭典」と言われます。今，まさに８月 28 日からパラリンピックが始まろうとしているこの時に，世界では戦争をしている国や地域があります。

どのような戦争かと言うと「ウクライナとロシア」,「アラブ人とユダヤ人」の戦争など，「国と国（民族と民族）との戦争（外戦）」，中東の「シリア」,「イエメン」，北アフリカの「リビア」など，「国の中での戦争（内戦）」です。

そして，これらの戦争をしている地域に４億人以上の子供たちが住んでいると言われています。この数字は，全世界の子供の数の６分の１です。世界の６人に一人の子供が，今日，食べるものがないかもしれない，自分の家がない，学校にも行けない，自分や家族が殺されるかもしれない，という中で生活をしているということになります。

ところで，世界が目指す持続可能な開発目標（SDGs）の目標の一つに，「平和と公正を全ての人々に」という目標があります。

持続可能な平和な社会の実現のために，まずは，「どんなことが今，世界で起きているのか」を知ることが大切なのだそうです。

そして，学校教育での「歴史」の学習を通して，過去に起こった紛争の原因やその被害などの歴史を学ぶことも大切です。同じ過ちを繰り返さないよう意識することができるからです。

そう考えていくと，持続可能な平和な社会の実現のためには，教育の役割は大きいのではないかと考えます。例えば，教育の機会で，子供たちは「仲間づくり」についても学びます。友達と触れ合う中で，自分とは違う意見があった場合，ケンカをして解決するのではなく，話合いで解決することを学びます。こういうことから，「どうしたら，世界のみんなが平和に暮らすことができるか」を考えるヒントになります。

さて，オリンピックの話に戻ります。ビーチバレー競技（女子）の決勝（ブラジル VS カナダ）で起こったことです。第３セットの中盤で，ブラジルとカナダの選手がネット越しに激しい口論を繰り広げました。審判が間に入り，選手をなだめましたが，事態は収束しません。両チームにイエローカードが出され，場内に不穏な空気が漂いました。その瞬間，ＤＪが機転を利かせてジョン・レノンの「イマジン」を流したのです。“愛と平和”の歌として世界中で親しまれるこの曲を聴いて，選手たちの表情が一気に和らぎました。そして，観客もメロディーに乗せて大合唱。騒動が収束し，試合は再開されたのです。

ご存知の通り，世界や日本を取り巻く安全保障環境は，これまでにないほど厳しい状況にあります。このような状況の中にあるからこそかもしれませんが，先のビーチバレーボール競技の決勝戦での出来事は，持続可能な平和な社会の実現を願う私たちにヒントを与えてくれたような気がします。

子供たちにも，「人はみんなきょうだいなんだ，みんなが世界を分かち合うんだ」と「想像することが大切だ」ということを，私たち大人が教え伝えていくことが大切なのかもしれません。そして，このことを，平和教育の根幹に据えるべきなのではないか，と教育者の一人として思うことでした。